

『看護研究方法論』 Hosihn Ryu 高麗大学教授による特別講義から

吉本 なを

要旨 高麗大学から Hosihn Ryu 教授を招いて開催された看護研究における方法論に関する特別講義の概要を報告する。

研究を行うに当たって、研究課題を設定する際に重要なのは、精緻な文献研究に基づき実施しようとする研究が、要因追及型、要因関係型、状況関係型、状況生成型の4つのタイプのどれに分類されるかを明らかにすることである。それにより、研究方法や研究デザインも必然的に選択されることとなる。日本における看護研究の現状として、記述的な段階すなわち要因追求型のものが多く、今後は、それを状況生成型である介入研究に結び付けられるよう、修士課程、博士課程においてそれぞれの段階に合致した研究過程を計画し、実践していくことが必要である。

Key words : 看護研究, 研究方法, 研究デザイン

1. はじめに

我が国の看護教育の大学化は急速に進み、それに伴い大学院を有する看護系大学数も増加した。2008年時点で、166校の大学に博士前期課程（修士課程）が存在し、そのうちの50校に博士後期課程（博士課程）がある。このような急激な変化に対応して看護学が発展するためには、実践のエビデンスを提供できる研究者を育てることが必須であり¹⁾、学士課程、修士課程そして博士課程へと続く学問体系ならびに教育体制の充実をめざす²⁾必要がある。韓国では、1960年に修士課程、1978年に博士課程が開設された。このことは高いレベルでの専門職教育を提供する機会となり、現在に至るまで、看護教育の知的土台となる看護理論の発達と研究活動が活性化されてきた³⁾。

鹿児島大学医学部大学院保健学研究科において、博士前期課程（修士課程）の学生を対象に、高麗大学の Hosihn Ryu 教授による、研究方法論についての特別講義が開催された。Ryu 教授が憂慮されている日本の看護研究における課題、それについてのアドバイスなど、多

くの示唆を得る機会となったため、講義の概要を紹介する。

2. 研究課題の選定

研究を始めるにあたり、研究課題を決めることが第一のステップである。研究課題には、『要因追及型』、『要因関係型』、『状況関係型』、『状況生成型』の4つの段階的なタイプがあり、自分の行おうとしている研究がどのタイプの研究課題になるのかを、まずは文献レビューにより明らかにする必要がある。関連する利用可能な文献がない場合は、全く研究がされていない段階であるため、『要因追及型』の研究となり、それは記述的なものとなる。関連する文献はあるが要因間の関係性がまだ明らかにされていない場合は、その研究課題は『要因関係型』の研究課題となる。この段階の研究では、例えば、教養のある人は健康能力が高い、というように、概念と概念の間の関係性を明らかにすることが目的となる。この『要因関係型』の研究を積み重ねて様々な要因間の関係性が明らかにされることで、その次の段階である予測的

な多分析な方法を使った『状況関係型』の研究にすすむことができる。この『状況関係型』の研究では様々な要因間の関係性が事象に対し示され、状況としての関係性が明らかとされる段階である。そして最終的な段階であり、最もレベルが高いとされている『状況生成型』の研究では、詳細な介入型、実験型の研究デザインに結びつくことになる。このように、どのタイプの研究課題にするかを選定するかによって次のステップである研究デザインや研究方法も必然的に選択される。

看護研究では、介入研究が看護の対象者にとって最も効果的だと考えられるが、文献レビューにおいて要因の関連性が明らかにされていない段階では介入研究を行うことはできない。韓国では現在、介入的な研究が多く行われているが、日本の看護研究の状況は、いつまでも内容分析などの記述的な研究が多く、段階的に研究が進んでいる状況ではないことが憂慮される。

3. 研究の枠組み

研究は、演繹的研究方法と帰納的研究方法の二つに分類される。演繹的研究を行う場合は、理論的枠組みが必要になる。例えば、ヘルスプロモーションの要因について研究する場合のペンダーのセルフプロモーションモデルのように、社会的に広く認識されている理論が枠組みとなり、その枠組みを使用して実証していく。

一方、理論作成を目的とするのが帰納的研究方法である。帰納的研究を行う際、研究者は、概念と概念を結びつけた枠組みを作成する必要がある。この概念枠組みは、文献レビューにより、他の研究結果を根拠として作成することができる。韓国での修士課程における研究では、論理的な理論的枠組、もしくは、理論がない場合は概念枠組みが必要であるとされている。概念枠組みまたは理論枠組みがある場合は、仮説がたてられる。記述的な要因追求型の研究の場合、関連する既存の文献がないため、理論枠組みは存在せず、仮説をたてることは不可能となる。

4. 研究デザイン

修士課程、博士課程の学生においては、論理的な研究デザインを選択するまでが非常に重要となる。研究デザインは、その特徴から質的研究デザインと量的研究デザインに分類される。

1) 質的研究

質的研究の研究方法には、グラウンデッド・セオリー、現象学的研究、民族学的研究、Q-methodology、歴史的研究がある。そのため、修士課程において質的研究を行うとする場合は、質的研究がすすんでいる多くの海外論文を読む必要がある。

日本の研究をみても、質的研究として「内容分析をした」というものが多くみられるが、内容分析は質的研究の研究方法のひとつではない。内容分析とは、研究デザインのすべてにおいて、常に行うものであり、内容分析そのものが方法論としてあるわけではない。

質的研究は哲学的要素が含まれるため非常に難しいものである。そのため研究の初心者が質的研究を行おうとするのであれば、最も取り組みやすいと言われている現象学的研究を勧める。グラウンデッド・セオリーは、最終的に理論を開発するものであるため、最も難しいとされている。現象学的研究やグラウンデッド・セオリーは、科学哲学の分野において開発されたものであるため、これらの研究を行うには、哲学を理解し、論理的に思考する必要がある。

質的研究を行う場合、研究者自体が研究方法となるので、研究者のそれまでの経験が重要となる。研究の準備段階として、研究者の資質や経験が問われるため、研究方法を記述する際は、研究者がそれまで何を経験してきたかを記載する必要がある。データ収集法として観察法や面接法があるが、得たデータを整理する際にも研究者の能力が最も重要となってくる。単に記述をして、それをまとめたものが質的研究ではない。質的研究は常に研究者の能力に終始することを忘れてはならない。

韓国では、初めて研究を行う学生には、質的研究は勧めない。修士課程においてどうしても質的研究を行いたい場合は現象学的研究を勧めている。例えば患者の経験の意味を知りたいが先行研究がない場合、研究能力が低くても現象学的研究を行う必要がある。しかし、グラウンデッド・セオリーは、研究者の準備が必要であり、実施は困難である。まずは、一定の形式に沿って研究プロセスをすすめることができるため量的研究から始めるべきであると考えている。

2) 量的研究

実験研究以外の研究デザインには、調査研究等がある。英語論文には、調査研究が最も多い。なぜなら、研究倫理の問題で実験研究が難しいからである。日本には、国が行っている調査研究により得られたデータが多くあるため、それを使って二次分析が可能である。理論的枠組がある場合、その理論的枠組をもとに、博士論文として二次分析を行うことも可能である。

理論的枠組がない場合、例えば、ある地域で高齢者のQOLの測定をしたいが尺度がない場合など、自分で測定方法を開発する必要がある。日本では、測定方法の開発が少ないことから、尺度開発は博士課程の研究に適していると考えられる。QOLや健康状態の尺度は、国や文化により異なっており、アメリカ人、日本人、韓国人のQOLはそれぞれ異なる。そのため、アメリカで開発された尺

度を、韓国でそのまま適用することはできない。他の地域で開発された尺度をそれぞれの地域で検証することが必要となるが、日本においてはそのような検証があまり行われていないと感じる。尺度開発をする場合の研究の初段階は、概念枠組みを作ることである。例えば、日本の高齢者の QOL に関する尺度を開発する際は、日本の高齢者がどんなことに幸せを感じるのか等、その特性を知る必要がある。

実験デザインには、はじめに説明したように、4つの研究課題があり、最も高い『状況生成型』のレベルとしての介入研究である。実験研究においては、操作性と統制、ランダム化の3つの条件がそろって初めて真の実験研究であるといえるが、看護研究においてすべての対象が人間である場合、真の実験研究は難しいのが現状である。

3) Triangulation と Focus Group Study

1980年以前まで量的研究が主流であったが、1980年代以降、質的研究が行われるようになり、その後、これらの研究法を合わせる Triangulation が行われるようになった。量的研究を補うため同時に質的研究を行い、双方から結論を導き出すのが Triangulation である。

また、質問紙を作成する際、十分な文献がなく、根拠に自信がない場合、量的研究を行う前に Focus Group Study を行うこともある。アメリカの生活習慣を異にする少数民族の健康行動の違いについて研究する場合、例えば、メキシコ系アメリカ人を5～7人程度対象者として集め、研究者がモデレーターとなってテーマを決め、2時間程度ディスカッションを行うことで質問紙を作成する際の根拠が得られる。このような方法は大規模な調査研究を行う前段階の研究として有効である。文献がない場合や、経験的にしか知られていない現象についての根拠を得ることができる良い方法といえる。Focus Group Study において重要なのは、モデレーターの技術である。例えば、認知症患者のケアに関する研究において、介護者のグループに Focus Group Study が用いられているが、Focus Group Study を開始する時、多くの介護者は発言をしない。それを引き出すのがモデレーターの役割であり、ある程度打ち解けてきたところで、不平が出てくるようになってきたらそれを引き出せるスキルが重要である。そのために10種類くらいのオープンな質問を用意する等の準備が必要である。

5. おわりに

日本において看護研究が本格的に行われるようになったのは戦後になってからのことであり、看護研究が公に発表されるようになったのは昭和30年代前半からである⁴⁾。以来、看護の質の向上を目的に、臨床状況だけでなく、看護教育や看護管理、ヘルスサービス、そして看護師の特性や役割に関する研究⁵⁾と、さまざまな角度から看護研究は行われてきた。しかし、その実態は、質や方法の面で、他の専門領域の人々の場合と比べて芳しいとはいえない⁶⁾といわれている部分もある。大熊らの調査によると、具体的な研究方法を実践的に学ぶ科目が存在していない大学院があることが明らかとなっている。

今回、Ryu 教授の講義を通じ、修士課程および博士課程を通して段階的に、研究過程を計画し、実践していくことの必要性を確認することができた。そうすることにより、対象者にとって効果的な介入研究を実施する基盤が形成される。また、研究方法を学ぶ学生にとっては、それまでのひとつひとつのステップを習得することが重要であることも確認することができた。

看護の対象者にとって効果的な介入研究を行うために、修士課程および博士課程を通して段階的に研究過程を計画し、実践していく能力を得られる体制が必要である。

引用文献

- 1) 高木廣文: 看護系大学院における看護研究法の教育実態. インターナショナルナーシングレビュー 2009, 32(3), 6-10
- 2) 井上智子: 「魅力ある大学院教育」のための看護学学位論文指導プロセスでの課題と展望. 看護研究 2007, 40(3), 3-7
- 3) 金曾任: 看護員から看護師へ 韓国における看護の変遷と専門性. 週刊医学会新聞, 第2196号, 医学書院, 1996
- 4) 川島みどり, 草刈淳子, 氏家幸子, 他編集: 日本の看護120年—歴史をつくるあなたへ. 第1版, 医学書院, 2008, p134
- 5) ナンシー・バーンズ, スーザン・K・グローブ: バーンズ&グローブ 看護研究入門—実施・評価・活用. 第1版, エルゼビア・ジャパン, 2007, p3
- 6) 神郡博: 研究とはなにか—その本来的意味. 看護実践の科学 2009, 34(11), 64-67

Special lecture about Nursing Research by Professor Hosihn Ryu

Nao Yoshimoto

Department of fundamental nursing, School of health Sciences, Faculty of Medicine
Kagoshima University , 8-35-1 Sakuragaoka, 890-8544, Japan

Abstract: It reports on the outline of a special lecture concerning the methodology in the nursing research that invited Professor Hosihn Ryu from Korea University gave to us.

There are 4 types of research problem: factor-isolating type, factor-relating type, situation-relating type, and situation-producing type. When we set research problem, it is the most important to clarify based on exquisite literature review which types of research problem we try to do. As the result, research methods and research design are inevitably decided. In the present states of nursing research in Japan, there are a lot of researches of factor-isolating type. In the future, we must tie them to intervention research in master's courses and doctor's courses.

Key words: nursing research, research methods, research designs